

性暴力犯罪が身近に起きたとき、必ずこの人がいます。

「やったやつの気持ちはわかるよ」。

「本当は冤罪じゃない？はめられたんじゃないの」。

それに対してこうしてくれる人の方が少ないのです。

「絶対許せない。きちんと処罰させないと」
「彼女は大丈夫なの？」

市民全体から見れば、性暴力犯罪加害者、被害者は少数かもしれません。一生の内で犯罪に手を染めることも、犯罪被害にあうこともない人が圧倒的に多いのです。だからこそ、皆さんにお願いしたいのです。理解できないと思っても耳を傾けてほしい。偏見に惑わされず、被害の事実を受け止めてほしい。そして、加害者にこそ「おまえが悪い」と言ってほしいのです。

もしもレイプなどの被害にあったら、相談されたら：

- ・交番よりは警察署の性犯罪被害者対策室へ連絡してください。性暴力に知識のあるスタッフがいます。
- ・妊娠の恐れがある時は、特別のピルを処方してもらうことができます。72 時間以内なら効果があります。警察からでも、病院に直接の相談でも処方してもらいましょう。
- ・証拠保全のために、入浴しないなど留意点があります。

詳細は警察庁ホームページで確認しておきましょう。

加害者に

「おまえが悪い」
と言って
くれますか？

加害者を

「許さない」
と言って
くれますか？

発行：性暴力をなくそうキャンペーン事務局

協力：NPO 法人全国女性シェルターネット

2009.8 月発行



「性犯罪被害にあうということ」
小林 美佳 著
朝日新聞出版刊



「STAND—一立ち上がる選択」
大藪 順子 著
いのちのことは社刊